

学校教育目標	
<p>○輝く心 信じ合う仲間 大きな希望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人の話を素直に聞き、積極的に粘り強く学び続ける子どもを育てます。(知) ・自分も友達も大切に思いやりのある子どもを育てます。(徳) ・心と体を鍛え、自分や人の生命を大切に子どもを育てます。(体) ・地域のものや人を大切に、共に生きる子どもを育てます。(公) ・よりよい環境について考え、実践しようとする子どもを育てます。(開) 	

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	
<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に考え、行動する力 ・粘り強く学び続ける力 ・自分を大切に、相手を思いやる力 	具体化した資質・能力 <ul style="list-style-type: none"> ・主体性・リーダーシップ ・流されない意志の力 ・多様性を認めた態度 ・課題解決力

中期取組目標	
<p>○子どもが自ら課題を見つけて考え、主体的に判断し、より良く問題を解決する力を育成します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりが課題をとりえ、見直しをもって学習できるような授業づくりをしていきます。 ・教科担任制を行い、教材研究に励み、学習の楽しさを実感できる授業づくりを推進します。 ・友達と関わり、試行錯誤しながらやり遂げる力を育成します。 ・基礎基本の確かな学力の習得を図り、スモールステップでめあてに向かって努力する姿勢を育てます。 ○自分の良さ、友達の良さに気づき、お互いを大切にすることを育てます。 ・全教職員が子どもたち一人ひとりの理解を深め、チームで対応し、安心して学校生活を送れるようにします。 ・日々の観察とデータを活用しながら、子ども一人ひとりの変化を捉え、学びの充実を生かします。 	

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
学習指導 担当 教務・重点推進	①個別最適な学びや自由進度学習などを取り入れて、学び方を選んだり、調整したりすることができるようにする。 ②校内授業研究では、国語科を中心として、子どもに選択場面や交流の場を工夫するなど教師によるコーディネートをする中で、自ら考えをもち主体的に学ぶ力を育てることができるようにする。

学力向上に関わる本校の状況
<p>(1)学力に関わる児童の実態</p> <p>国語科を中心に個別最適な学習を取り入れた授業改善により、自分から友達に相談に行ったり、ヒントカードを見たり、自ら学ぼうとする主体的に取り組む姿が見られた。さらに教員が授業を工夫することで、一人ひとりの考えを書いたり伝えたりする表現力が向上している。自分が決めた課題やめあてに対して、できるようになったこと、自分に足りないこと、もっと改善したいこと等、自己の学びを振り返り調整する姿が増えてきた。一方で、友達の考えを受けて自分の考えを深める姿、自然な1.5往復の会話、ねらいにそった自分のめあてを立てる力などに課題が残っている。</p> <p>(2)これまでの学校の取り組み状況</p> <p>全学年教科分担任制を行い、学習指導の充実を図ってきた。また、学年によっては、理科、音楽、図工、家庭科、英語は専科による指導も取り入れ、教師の専門性を生かした授業づくりの実現を継続している。校内重点研究では、国語について研究を深め、他教科でも生かしていけるような授業実践を行っている。</p>

今年度の目標
<ul style="list-style-type: none"> ○育成を目指す資質・能力を明確にし、見直しをもった学習活動の展開を図り、学び合いによって見方・考え方が広がる授業づくりをする。 ○単元のゴールを明確にした上で、振り返りの時間をとる個別最適な学びや自由進度学習などを取り入れ主体的な学びを育てていく。

目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期	<ul style="list-style-type: none"> ○各単元、一単位時間で育てたい資質・能力を明確にした授業づくりを実践する。 ○ICT端末を効果的に活用し、互いの考えの違いや良さを見つける学習の積み重ねにより、見方・考え方が広がったり深まったりする姿を目指す。 ・タブレットの思考ツールを選択できるようにする。 ・言葉の宝箱や言葉表を活用する。 ・学び合いの場の工夫 ○単元のゴールを具体的にすることや、目的意識を明確にもてる内容や他教科との関連のある単元づくりを工夫する。 ○個別最適な学びや自由進度学習を取り入れ、課題や学習方法を自分で選択できるような授業づくりをする。 ○自己の学びを振り返り調整する姿が増えるよう、自分の伸びや課題点を自覚できるようにする。
下半期	<ul style="list-style-type: none"> ○各単元、一単位時間で育てたい資質・能力を明確にした授業づくりの実践と、目的意識のある内容や他教科との関連のある単元づくりを工夫する。 ・学びの成果を発表する場をつくり、達成感を得たり、自分の成長を感じたりすることができるようにする。 ○ICT端末を効果的に活用し、互いの考えの違いや良さを見つける学習の積み重ねにより、見方・考え方が広がったり深まったりする姿を目指す。 ・自分に合った思考ツールの選択や言葉の習得により、自分の考えを適切に表現できるようにする。 ・必要感のある学び合いができるように場を工夫し、1.5往復のやりとりを目指す。 ○自己の学びを振り返り調整する姿が増えるよう、自分の伸びや課題点を自覚できるようにする。 ・自分のめあてに合ったワークシート、交流相手、必要な資料などいくつか選択肢を準備することで、学びの自己決定する機会を増やす。 ・目標や振り返りを画面共有したり意図的に紹介したりすることにより、学び方を見直せるようにする。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
豊かな心 担当 道徳教育推進	①道徳科を要として学校の教育活動全体を通じて道徳教育を推進し、豊かな心の育成を目指す。②ペア学年での交流活動の中で、リーダーシップの育成や自分の目標とする姿を想起できるように活動の充実を図る。③自分の思いを書いたり、話したりする活動の中で自分自身を見つめることができるようにする。

豊かな心に関わる本校の状況
<p>(1)豊かな心に関わる児童生徒の実態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分に自信がもてない ・人のためになることをしたいと思う児童が少ない <p>横浜市学力・学習状況調査「生活・学習意識調査」によると、これまでは「自分のことが好きですか」という問いに対して「好き」「どちらかと言えば好き」を合わせた回答が横浜市全体を大きく下回る傾向が続いていたが、昨年度は向上傾向が見られた。しかし、学年によっては、まだ下回る結果だった。また、高学年では「人のためになることをしたいと思う」と答えた児童は市平均を下回る結果だった。</p> <p>(2)これまでの学校の取組状況</p> <p>特別の教科「道徳」では、児童が課題意識をもてるように、行事との関連を図りながら単元の配列を組み替えて授業を行ってきた。</p> <p>また、道徳の価値の理解を自分自身との関わりの中で深められるような自己内対話や友達との対話、教材との対話ができるような授業展開の工夫を図っている。</p> <p>また、「だれにとっても居心地のよい柏尾小」「いじめがおきにくい柏尾小」をめざした取組を強化した。特に昨年度は、児童会活動での「ピンクシャツデー」の取り組みを通して、より安心して過ごせる学校に向けて、全学年で「いじめ」について話し合い、未然防止に向け自分自身ができることや、目指したいことを全児童が考え、主体的に判断できる児童の育成を目指した。</p>

今年度の目標
<ul style="list-style-type: none"> ○自分の良さ、友達の良さを見つけ、相手を思いやる児童の育成 ○善悪について主体的に判断し、よりよい生き方をしようとする児童の育成

目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期	<ul style="list-style-type: none"> ○特別の教科「道徳」を要とする学校の教育活動全体を通じた道徳教育の実践 ・自分の思いを書いたり、話したりする活動の中で自分自身を見つめる「考え、議論する道徳」を展開することで、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。 ○夢や希望、目標をもてる子どもを育成する自分づくり(キャリア)教育 ・ペア学年での異学年交流(1・6年 2・4年 3・5年) →学習交流、遊び交流、日常交流 ・「キャリアパスポート」を活用し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、前期を振り返ったりして、子ども自身の変容や成長を自己評価できるようにする。 ○体験活動の充実 ・地域と連携した体験的活動(米作り、野菜作りなど)の実施 ・自然体験活動の充実(上郷、西湖、日光) ○特別活動の充実 ・学年実行委員会の立ち上げ ・異年齢集団による活動の充実を図る
下半期	<ul style="list-style-type: none"> ○特別の教科「道徳」を要とする学校の教育活動全体を通じた道徳教育の実践 ・自分の思いを書いたり、話したりする活動の中で自分自身を見つめる「考え、議論する道徳」を展開することで、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。 ○人権感覚あふれる学校づくり ・自分・友達・学級のいいところ探しの実施。 ・児童会活動や学級活動の中で、いじめについて話し合い、未然防止に向けて自分に何ができるか、どんな自分を目指すのか考える。 ○夢や希望、目標をもてる子どもを育成する自分づくり(キャリア)教育 ・地域と連携した体験的活動(米作り、野菜作り、福祉体験など)の実施 ・「キャリアパスポート」を活用し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、1年間を振り返ったりして、子ども自身の変容や成長を自己評価できるようにする。 ・スポーツフェスタ実行委員会の立ち上げ(6年) ・ゲストティーチャーによるキャリア教育に関する講話会

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健やかな体 担当 体育部・食育担当	①体育学習や運動委員会による集会を軸に、子ども主体で体を動かし、運動に親しめるように努める。 ②各教科・領域や、食育部からの「食に関する指導資料」を活用して、継続した食育を行っていく。 ③ICTを活用した生活リズムチェックを行うことで、規則正しい生活に向けての改善を図っていく。

健やかな体に関わる本校の状況
<p>(1)健やかな体に関わる児童の実態</p> <p>本校の児童の体格は、身長・体重のどちらも横浜市の平均より低くなっている。また、生活習慣については、次のことが言える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○朝食の喫食率は、横浜市の平均より上回っている学年が多い。 ○食育アンケートより、栄養のバランスを考えて食事をしていると回答した児童は48%であった。 ○睡眠時間が短い。 ○テレビやゲーム機、パソコンなどの画面を見る時間が長い。 <p>次に、体力の概要である。今年度も男女とも横浜市の平均よりも下回っている。また、運動時間にも個人によって差が見られた。これらのことから、運動習慣が身に付いていないことや、運動の二極化の傾向が見られると言えらる。その中で、「できるようになるために繰り返し練習すること」、「できなかったことができるようになること」「友達と教え合いながら学習すること」に楽しさを感じている児童が多かった。そこで、友達との学び合いの中で運動する経験をたくさんすることで、進んで運動に親しむ態度を養い、将来的な豊かなスポーツライフの実現につなげていきたい。</p> <p>(2)これまでの学校の取組状況</p> <p>体育科学習では、児童の体力や運動経験に留意して、授業改善をしてきた。保健領域では、自分事として課題を捉え、取り組むことができるよう、身近な題材で授業を行ったり、発問を工夫したりした。また、養護教諭や栄養教諭とも連携して授業を行ってきた。さらに、食育タイムを設定し「食に関する指導資料」を活用して、年間を通して食育を行った。</p> <p>委員会が主体となった取組では、運動委員会が主体となり、休み時間に用具の貸し出しやミニ運動会、長縄集会を行うことで運動に親しむ機会をつくることできた。給食委員会では、給食週間で赤黄緑の食べ物バランスよく食べているか見直したりした。学校保健委員会では、けがや心について取組をしている中で、心身の健康に対して意識を高め、行動改善につなげてきた。</p>

今年度の目標
<ul style="list-style-type: none"> ・体育学習や休み時間の遊び、運動委員会の取り組みで子どもが主体となって体を動かし、友達と運動に親しむ姿を目指す。 ・朝食の喫食率を上げ、給食ではバランスよく食べようとする姿を目指す。 ・規則正しい生活を意識させ、生活改善に向けた指導の充実を図るとともに、自己の健康課題の解決に向けて、校内外連携の充実を図る。

目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期	<ul style="list-style-type: none"> ・体育科学習では、同じ学年が続きの時間で授業をして、準備や片付けをスリム化することで、運動時間を確保する。また、ICTを用いた学習カード・資料を活用して興味をもたせる中で、授業の見直しをもたせたり、振り返りの時間を設けたりすることで、運動への関心を高める。 ・食育タイムで、「食に関する指導資料」を用いた学習を行い、継続的に食育を行っていく。 ・栄養教諭や養護教諭と学級担任・専科が連携し、教科等での食や健康に関する授業を行う。 ・長期休業後(9月)にICTを用いた「生活リズムチェックシート」を活用することで、自分の生活を振り返り、よりよい生活を心がけるように促していく。 ・学校保健委員会では、本校の心身の健康課題について子どもたちが自分事として捉え、主体的に考え、改善に向けて行動できるような活動を広げていく。 ・運動・給食・保健委員会で子どもが主体となって計画を立て、目標を具現化するための取り組みを行っていく。
下半期	<ul style="list-style-type: none"> ・体育科学習では、同じ学年が続きの時間で授業をして、準備や片付けをスリム化することで、運動時間を確保する。また、ICTを用いた学習カード・資料を活用して興味をもたせる中で、授業の見直しをもたせたり、振り返りの時間を設けたりすることで、運動への関心を高める。 ・スポーツフェスタの取組では、徒競走や演技において、子どもの声を取り入れながら学習指導要領のねらいに沿った運動を行う中で、人と関わり合って、活動する喜びを実感したり、運動に親しんだりする場とする。また、自己表現をしたり、仲間とともに観え合う場とする。さらに、お目標に向かって心と体を鍛え、粘り強くやり遂げる場とする。 ・食育タイムで、「食に関する指導資料」を用いた学習を行い、継続的に食育を行っていく。 ・栄養教諭や養護教諭と学級担任・専科が連携し、教科等での食や健康に関する授業を行う。 ・規則正しい生活や心身の健康課題について知識が得られるように、保健だよりや掲示物等で児童・保護者に情報発信をする。また、個別の健康課題を解決するために、学年・専任・養護教諭・栄養教諭等の関係職員が情報共有し連携を図っていく。 ・長期休業後(1月)にICTを用いた「生活リズムチェックシート」を活用することで、自分の生活を振り返り、よりよい生活を心がけるように促していく。 ・前期の活動を踏まえ、運動・給食・保健委員会で子どもが主体となって計画を立て、目標を具現化するための取組を行っていく。 ・給食週間では、個人カードで給食の食べ方を振り返り、栄養バランスのよい食事にもつて行動につなげられるようにする。